

**令和7年度第1回京丹波町地域包括ケア推進委員会及び
第1回京丹波町地域密着型サービス運営委員会**

日時：令和7年10月29日（水）

午後1時30分～午後3時30分

場所：京丹波町役場 2階 大会議室

出席者：片山委員長、津田副委員長、荒牧委員、由良委員、畠中委員、山田委員、谷口委員、山口委員、村上委員、上林委員、瀧村委員、桐野委員、石田委員（13人）

欠席者：堀委員、谷山委員、越川委員（3人）

事務局：健康福祉部 中川部長

健康福祉部医療政策課 中野課長

健康福祉部福祉支援課 原澤課長、上西係長、堀補佐、中川主任

（福）京丹波町社会福祉協議会地域福祉課 山本課長（京丹波町生活支援コーディネーター）

1 開会（原澤課長の司会により進行）

2 委嘱状の交付

町長から委員を代表して荒牧委員へ交付（他の委員へは事務局より手渡す）

3 町長あいさつ

出席及び委員就任等へのお礼。

本町においては、令和6年度からの3年間を計画期間とする京丹波町高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画に基づき、高齢者の皆さん方が可能な限り住み慣れたこの地域で、安心して自分らしい暮らしを続けていただくことができるよう、地域包括ケアシステムの一層の深化、推進を図るとともに、地域共生社会の実現を目指した取り組みを進めている。

今後も、高齢者の皆さんの困りごと、求めておられるものを的確に把握し、人のふれ合いを感じる町づくりに取り組んでまいりたい。引き続き皆様方のご理解、ご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

4 自己紹介

各委員、事務局の順に自己紹介

5 委員長、副委員長の選出

委員長（片山俊明委員）

副委員長（津田勝二委員）

委員長あいさつ（片山委員長）

一生懸命務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

副委員長あいさつ（津田副委員長）

片山委員長を補佐する形で務めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

次の公務のため町長退席

（以下進行：片山委員長）

6 協議事項

(1) 第1回京丹波町地域包括ケア推進委員会

① 第9期介護保険事業計画等の進捗状況の報告及び評価 資料1

(説明：事務局 上西係長)

【質疑】

委員：「地域包括ケアシステムの強化」の評価や課題・改善策等として「地域包括ケアの規範的統合」とあるが、具体的にはどのようなことか。

事務局：地域ケア会議の出席者の方に、京丹波町における地域包括ケアとはどういったものかということについて、基準あるいは規範となったところの意思統一をしていただくという意味合いである。

副委員長：「ケアマネジメントの充実」と「居宅介護支援事業者への支援」の主な取組内容と評価や課題・改善策等の記載が同じだが、これでよいか。

事務局：地域ケア会議は毎月行っており、2事例の提供を行っている。それが「ケアマネジメントの充実」になっているため、この文言については正しい。「居宅介護支援事業者への支援」については、地域ケア会議に先立ち、地域ケア会議の、特に代表者、ケアマネージャーに計3名ほど出席いただき、事前協議等の場を設けている。
したがって、内容的には取り組み内容、評価・課題改善等が同じになるが、事前協議ということで、「居宅介護支援事業者への支援」として行っている。

② 高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画の策定について 資料2

(説明：事務局)

【質疑】

副委員長：要介護（要支援）の調整済認定率で、京都府全体の中で京丹波町が低く、特にその中でも要支援1・2が低いということだが、これまで京丹波町が取り組んできた、こういうことが効果を出したということがわかれば教えてほしい。

事務局：各事業所等に委託をさせていただいている介護予防に関する様々な事業により、本来なら認定を受けて要支援と認定されてもいい方が、ひとり暮らしだが認定を受けなくとも地域で自分らしく生活していただけるような様々な事業提供が京丹波町でなされているということが一番大きいのではないかと感じている。退職後も、農業や、世帯主として家を守っていかなくてはいけないというような、それぞれの自分の仕事や居場所がたくさんあることが、こういう結果に繋がってるのではないと思われる。

③ 第10期介護保険事業計画等の策定に係るアンケート調査について

・在宅介護実態調査

資料3-1

・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

資料3-2

(説明：事務局)

【質疑】

委員：「本町の高齢者福祉施策について」の設問の中で「保険料が高くなるのは仕方がない」という選択肢になってるが、どうしたら保険料が抑えられるかというようなものはないのか。保険料が高くなるのは仕方がないというように聞いているのはどういう意図があるのか。

事務局：そのサービスの利用も含めて、サービスの充実のためには保険料が高くなったことも受け入れるかというお気持ちを聞くものとなる。何を問うのか、選択肢として正しいのかということ、言葉を含めてもう一度検討したい。

委員：京丹波町は施設は充実していると思う。

第9期から介護報酬も値上げされて利用者は大変。お金の件は本当に慎重に問いかけをしていかないといけないと思う。

委員：この選択肢は、消極的なイメージ。介護保険をこれから使う方も、現在使っている方も、施設が充実しているか否かもわからない、介護保険や事業所の仕組みや種類もわ

からないというのが現状。高くないようにしたいし、充実もしてほしいというのが率直な意見だと思う。それを選ぶ選択肢がない。発展していく京丹波町でなくてはいけない。私たちも含めて、それぞれ高齢者になっていくので、今後の観点から選択肢の内容も付け加えてもらえるとありがたい。

委員：設問の最後に「その他」として自分の意見を書く欄を設けてはどうか。

事務局：この設問は以前から設けている独自の設問だが、ご意見をいただいて改めて、設問の意味や選択肢の書き方を、どういう意味で設けるのか、何を求めているのかということをもう一度考えさせていただいて、選択肢も含めて整理していきたいと考える。貴重なご意見をいただきありがとうございます。

委員長：いままでのアンケートで、このままやってきたが、これはちょっと待ってよと言ってもらえるようになってきた。それだけ色々なことが見えてきたということだと思う。これからはそういう意見を出しやすい環境ができると良いと思う。その辺も含めて事務局の方で検討いただけたらありがたい。

（２）第１回京丹波町地域密着型サービス運営委員会

地域密着型サービスの現況報告について **資料４**

（説明：事務局 上西係長）

【質疑】

委員長：地域密着型サービスの色々な事業所について、今後増える可能性があるのか、減る可能性があるのかということについてはどのように考えているか。

事務局：利用者数がこれ以上増えるか減るかということについては、現状では言えないが、いま通常規模で運営されている事業所が地域密着型への移行をとというような動きも進むかと考えている。

委員長：人口が減ると利用者もどんどん減ってくる。そうすれば、利用者としては、こういう施設でお世話になりたいという選択肢がどんどん減ってくる可能性があるのではないかと。そうならないように、できる限り利用者の皆さんが喜んで選択できる環境で施設が運営できるようなことも含めて、行政としても考えてもらわないといけない時期が目の前に来るのではないかと気がするので、よろしく願いしたい。

事務局：多様な選択肢が提供されるということは非常に大切なことだと思っており、そういったところを目指して、一緒にやっていきたいと思っている。

委員長：経営をする側にとっての非常に厳しい現実と、利用者の思いもなるべく汲むという狭間が出てくる。先程のアンケートと同様、今後はそういうことについても考えていかないといけない時期が来るのではないかと思う。

委員：社協のデイサービスを閉鎖するという話について、何故そのようになったのかを教えてください。

副委員長：色々な原因が重なってこのタイミングにもなったのだが、ひとつは人材が集まらない、専門職の方を募集するということが大変難しいということ。もうひとつは人口が減ってくる中で利用者も減少していく。このままいくと、デイサービスが地域社会資源としてはなくなっていく中で、社協がいつまでも残るより、いま残っていただいているところを優先するべきではないかという判断。あともうひとつは、施設の老朽化に、財力を充てていくという見通しが厳しいということ。

委員：そこへ通っていらっしゃった方は色々なところに振り分けられるのか。

副委員長：はい。ケアマネジャーに協力いただきながら、もう既に移行された利用者もある。最後まで来るという方も、次の所はもう決まっている。

（３）その他

委員長：町の方へ要望があるということです。

委員：いま国の方で介護報酬の改定等色々考えていると思うが、これまでは介護報酬改定の度に利用者の負担が増えるような方向。収入の低い方に対する負担が増えるような介護報酬改定はやめてもらいたい。国の方へ要望は上げられないか。

事務局：そこをどう解決していくかということについては、両方のご意見が上がっているということ、それを地方の声として上げていかなければならないと思っている。事業所としての立場と利用者の立場、それぞれ伝えていくのが我々の役割とっており、小さい声でも上げていただければありがたい。

委員：最低賃金の上昇に伴い、介護施設でも働く人の賃金を上げていかないといけないと思う。そうすると、介護報酬のところで人件費の負担が増えていくと思うので、それに見合った、且つ、利用者がその負担を負わされないような介護報酬の上げ方というのを、国の施策で考えてもらいたい。自分たちの賃金が上がるのはいいが、利用者がその負担に耐えかねてサービスを減らさないといけないということがないように、きっちり仕組みをつくってもらわないと。現場ではこういう声が出ているということ、この策定委員会の委員の立場からだけでもいいので国の方に強力に上げていっていただけないかと常々思っている。

委員長：利用しやすい環境もつくりたいといけないし、働いている人が働きやすい環境もつくりたいといけない。利用者の負担が増えて、そんなもの使えないということにならないように、また国の方にも要望していただけたらありがたいと思うので、よろしくお願いします。

委員：現実としては物価高騰の大きな影響を受けている。京丹波町からは物価高騰対策金ということで支援していただいている。他市町村では支援金はなかったところもあるそうで、すごく助かっている。

介護職員の処遇改善をものすごく頑張っているのだが、処遇改善とか職員の人件費に関しては、やはり国の補助金等で、利用者からいただかないような形で私たち介護職員を助けてくれないかということが一番の願い。どんどん報酬改定があるのだが、職員の人件費まで加算で取っているというのは、経営している側としても許せない。京丹波町としては、色々な形で介護事業所に対する支援を進めてもらっており、大変ありがたいと思う。

委員長：ありがとうございます。施設を運営している側としても色々な悩みもあるという中で、色々なことを事務局の方でも検討いただきたいと思います。

委員：現場の声を伝えていかないと国はわからない。
お弁当配りをした時に、ひとり暮らしの高齢者で、100円でも上がるのであれば1回減らすという方がいた。1回に100円が厳しい人があるというのは身に染みてわかっている。その辺を国に対して、要望を上げていくということも大事だと思うので、お願いします。

委員長：委員の皆さんがサインを一緒にして、それ持って行ってもらったと思います。

事務局：非常に貴重なご意見、また慎重な審議をいただきまして、ありがとうございます。

次回委員会

事務局：来年の3月頃の開催予定。少し先の日程になるので、日程については改めてご案内をさせていただきます。

7 閉会（津田副委員長あいさつ）

皆さん活発なご意見いただきましてありがとうございます。高齢者を取り巻くサービスの現状、事業者、経営者側の視点など、それぞれのご意見が出たかと思う。

京丹波町のいまの住民の状況というところでは、人口が減ってきている、また高齢化率が上がってきているが、要介護認定を受けられている方は府内では少ない方だということで、原因・理由は、ひとり暮らしでもしっかりと野菜づくりなど、それぞれ生きがいを持って生活されているところが、他の市町村に比べ京丹波町の強みかなということをお聞かせいただいた。

高齢者が必要とされる時に、必要なサービスを提供しなければならないが、利用者自身が自分らしく生きるという観点で、生きがいをもっと支援していけるようなことを、この計画に組み入れられるような意見を出していただけたら嬉しいと思う。

これからもお世話になりますが、よろしくお願いいたします。